

## 鹿児島県における気候変動の影響や適応に係る事例

分野	農林水産業	実施者	鹿児島県農業開発総合センター
事例名	春施肥への変更によるニホンナシの発芽不良発生軽減効果		

### 1 目的

ニホンナシは、秋冬期（10～12月）の気温の低下に伴い、徐々に耐凍性を獲得していきますが、秋冬期が温暖な近年では、耐凍性を十分に獲得できないため、その後の厳寒期（1～3月）の低温に耐えられず、発芽不良が発生しています。また、秋冬期の樹体内窒素含量が多い場合も、耐凍性の獲得が阻害されます。そこで、施肥時期を秋から春に変更し、秋冬期の樹体内窒素含量を抑え、耐凍性を十分に獲得させることによる、発芽不良発生軽減技術の開発に取り組みました。

### 2 結果

ニホンナシ栽培において施肥時期を、秋の9～11月から、春の3月に変更することによって、耐凍性が増し、発芽不良の発生を軽減できました（図1, 2）。また、春施肥への変更は、果実品質及び収量には影響しませんでした（表1）。

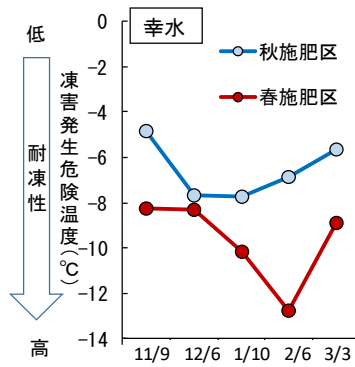


図1 施肥時期と耐凍性

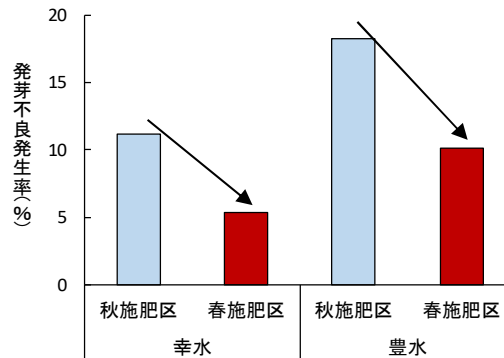


図2 施肥時期と発芽不良発生率

表1 施肥時期と果実品質、収量

品種	試験区	果実重 (g)	地色 色票値	糖度 (° Brix)	果実酸度 (pH)	収量 (kg/m <sup>2</sup> )
幸水	秋施肥区	336	2.8	12.2	5.4	2.2
	春施肥区	352	2.8	12.0	5.4	2.2
豊水	秋施肥区	430	3.9	12.6	4.9	3.5
	春施肥区	426	3.9	12.8	4.8	3.6



発芽不良対策マニュアル

本研究は、農林水産省プロジェクト研究A-11「温暖化の進行に適応する生産安定技術の開発」内で、農研機構果樹・茶業研究部門と共同で実施したものです。

実施部局(電話)	鹿児島県農業開発総合センター企画調整部 (099-245-1113)
ホームページ	<a href="https://www.pref.kagoshima.jp/ag11/pop-tech/nenndo/documents/reiwagannenndokennkyuuseika.html">https://www.pref.kagoshima.jp/ag11/pop-tech/nenndo/documents/reiwagannenndokennkyuuseika.html</a>
報告書等	令和元年度 普及に移す研究成果